

2. 「みるスポーツ」～スポーツ文化を享受できる環境の整備～

【背景と課題】

- アンケートでは、地域で障がい者スポーツが普及しているかわからない人が6割以上を占めていることから、障がい者スポーツの認知度を上げる取り組みが必要です。
- 平成 32（2020）年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。このことを契機として、オリンピックのホストタウンである本市のプロモーションを強化し、本市が有するスポーツ資源を活用していくことが求められます。

【施策の方針】

誰もが使いやすい施設にするため、バリアフリー・ユニバーサルデザインを推進する改修を行います。

トップアスリートや障がい者のスポーツイベントなどを開催し、スポーツを「みる」機会を創出することで、スポーツに関心を持つきっかけづくりを行います。

【施策の指標】

指標	現状 【平成 29 （2017）年度】	中間値 【平成 34 （2022）年度】	目標値 【平成 38 （2026）年度】
主要スポーツ施設（廿日市市スポーツセンター、佐伯総合スポーツ公園）の利用者数	493,844 人	543,000 人	550,000 人

(1)「みる」スポーツの充実

国際的なスポーツ大会やプロスポーツの試合などの誘致や、地域の特性を活かしたスポーツイベントの開催などにより、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、地域の活性化につなげます。

主な取り組み
【トップレベルのスポーツイベントの開催等】 ◆ トップアスリートによる試合、講演会等の開催やその情報提供を行うことで、トップレベルのスポーツとつながる機会を創出します。 ◆ 全国的・国際的な大規模スポーツ大会の誘致・開催を通じて、地域住民を活気づけるとともに、地域経済の活性化を目指します。
【新しいスポーツの活用】 ◆ BMX（バイシクルモトクロス）やスケートボードなどのアーバンスポーツ（都市型スポーツ）、また、eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）のような新しいスポーツに出会う機会を提供し、スポーツの楽しさを広めます。
【オリンピック競技大会との連携】 ◆ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「2020 年東京大会」という。）に向け、ホストタウンとして機運の醸成を図るとともに、大会終了以降はレガシーとなるスポーツ交流の継続に努めます。 ◆ 2020 年東京大会の参加競技団体による事前トレーニングキャンプを行うことで、国際レベルのプレーを間近で観覧できる機会を創出します。
【地域特性の活用】 ◆ 多様な地域で構成される「廿日市」らしく、自然的・地理的な条件のもとや、各地域に所在する施設で行われるスポーツイベントを観覧する機会を創出します。



(2) スポーツ施設等の観覧環境の充実

アンケートでは、スポーツの活性化に必要なこととしてスポーツ施設の整備が求められていることから、施設を計画的に整備して、市民の誰もがスポーツを観て楽しめるようにします。

主な取り組み

【スポーツ施設の整備・充実】

- ◆ 誰もが快適に観覧できる施設となるように、廿日市市スポーツセンターや佐伯総合スポーツ公園のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を促進します。
- ◆ スポーツ施設等の観覧設備を整備して、市民がスポーツに触れる場を提供します。

(3) 障がい者スポーツに対する理解促進

市民が障がい者スポーツを知る・学ぶ環境を整備し、障がい者スポーツに対する理解を促進します。

主な取り組み

【障がい者スポーツイベントの開催】

- ◆ パラリンピアン等の障がい者スポーツのトップアスリートを招へいして、障がい者スポーツの普及啓発イベント等を開催することで、障がい者スポーツに対する理解促進に努めます。
- ◆ 障がい者スポーツをみる機会を創出するため、各種障がい者スポーツの大会開催を支援します。
- ◆ 障がい児が障がい者スポーツに興味・関心を持つよう、パラリンピアン等の障がい者スポーツのアスリートによる試合や講演会を開催し、障がい児の参加を促します。

